

## 令和4年度 第2回 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和4年9月26日(月) 午後1時30分から、木曾合同庁舎講堂において令和4年度第2回長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

### 1 出席委員 五十音順 (敬称略)

大久保和典 委員 木祖村西山地区活動組織代表  
織田 晴久 委員 木曾郡農業委員会協議会長  
黒内 拓美 委員 和牛繁殖・肥育一貫経営 (先進農家)  
塩澤 郷子 委員 ふるさと体験館 きそふくしま職員  
志水 敏春 委員 木曾農業協同組合野菜生産部会  
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長  
富井 聡美 委員 女性農業委員 (消費者)  
二宮 美香 委員 加工施設 (元地域おこし協力隊員)  
野口 廣子 委員 長野県農村生活マイスター木曾支部長

### 2 次第及び議事録

#### (1) 開 会

#### (2) あいさつ

#### (3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

#### (4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

#### 【田屋部会長あいさつ】

・本部会は地域の農業農村の振興策の方向性を検討する非常に大事な役割を担っている。委員の皆さんの協力により、スムーズに進めていきたい。木曾を代表する農産物である白菜の成育も順調進み、6月から出荷が始まった。非常に品質も良く、クレームもほとんどなかったが、豊作基調となり、価格が伸び悩んでしまった。その結果8月に入り、県の全県調整廃棄事業や国の緊急需給調整事業が発動され、非常に残念だが、圃場で白菜を廃棄するというようなことも行われた。畜産においては、全国的に子牛の価格が下げ基調となったと同時に、飼料価格の値上げで畜産農家の経営に大きな影響を与えている。米の作況指数については、100くらいと予想されているが、長野県の一等米の比率が93%くらいになるのでは。木曾においては、カメムシの被害等もあり、一番良い時で80%くらい。稲刈りの最盛期を迎えているが、今年の最終的な数字が決まったら皆さんにご報告申し上げたい。

・本日は令和5年度からの第4期食と農業農村振興計画の木曾地域の発展方向にご意見を賜りたいと思う。自然災害の増加や、未だ終息が見えないコロナ禍ではあるが、木曾地方の農業農村の将来を見据えて、どのようにしたら農業振興ができるのか、また、地域の農業を守っていけるのか、それぞれの立場から、希望的観測を含めながら忌憚のないご意見

を賜りたい。

[部会成立報告] 砂場所長

・部会員 10 名のうち 9 名の出席により、委員の過半数に達しているので、食と農業農村振興審議会地区部会の設置規程第 4（5）の規定により、部会の成立を報告。

[県 審議会資料の説明（資料 3 - 1）] 説明：太田係長

[木曾地域の発展方向（資料 1）] 説明：太田係長 福島補佐

**【大久保委員】**

（重点取組 4 について）

・クマによる農作物被害について。最近は民家近くにも出没し、遭遇頻度も増えた。電気柵の対策もするが、乾電池タイプだと半月ほどで電圧が下がる。生態系の関係もあり、捕獲したら遠くの山に放すとのことだが、駆除しないのは長野県だけとも聞いた。民家近くに出るとなると、農業に対する獣害が心配される。猟友会員からも個体数が増えているのではないかとの話を聞くので、駆除も必要なのではないかと思う。県の考えを聞きたい。

**【砂場所長】**

・農業農村支援センターと林務課で鳥獣対策チームを組み、電気柵や追い払いの指導をしている。交付金事業を活用するなど、ハード、ソフトの両面で対応しているが、クマについては駆除と防御ともにやる必要があると感じている。木曾の場合は木の皮を剥いでしまう林業被害が出ている。農業被害や人的被害も大きな問題なので対策を検討していきたい。

**【水谷主任】**

・林務課でクマ被害の対策を行っているが、林務と農政で鳥獣対策支援チームを作り、動いている。電気柵の確認等をしているが、クマの被害が頻繁に出るようなら、我々が現地で相談を受け対策を考えるので、連絡いただきたい。皮はぎなどの林業被害が大きければ、放獣ではなく駆除の対象になっているので、農業被害に関しても相談を受けるので連絡いただきたい。駆除できるかどうかは、林務にも聞いてご連絡申し上げる。

**【田屋部会長】**

・（クマの）人的被害が出れば駆除だが、基本的には放獣し、すぐには駆除は出来ないと聞く。

**【水谷主任】**

・基本的にはそうです。

**【塩澤委員】**

(重点取組3について)

・伝統野菜の担い手の不足や形質の保存など生産組織ごとの実情に応じた継承支援、面積維持の部分について。赤かぶ栽培者の中で問題になっているのが、温暖化のせい、8月に早蒔きしたら虫の被害が多いと話がある。すんき菜も以前のように収穫できなくなっている。栽培に対する話し合いや、標高ごとの播種時期など、組織ごとでもいいが栽培指導に力をいれてほしい。

・小中学生への食育も大事だと思うが、私たち30、40代への継承にも力を入れていかないと繋がっていかないと。私たち30、40代が郷土料理等を親世代からどうやって継承するかが大事なこと。そういった機会を与えてもらえるといいと思う。

#### 【砂場所長】

・赤かぶに限らず、気象変動による被害が出てきているのは承知している。4年前までは入門講座で赤かぶのコースを別に設けて、南部にも広げていきたいとやっていた。今回そのような病害の課題も聞いたので、資料を作成したらいいか、講習会を開いたほうがいいのか、連携してやっていきたいと思う。

・世代継承についてはその通りかと思うので、何らかの支援をしていきたいと思う。

#### 【織田委員】

・木曾のような山間部では有害鳥獣関係で非常に苦慮している。木曾の狭い土地ではあるが、長い年代で整備してきていて、土地への執着は非常に強いと思う。(農地を)集約化等で貸し出すのも踏ん切りがつかない時もあり、入り組んでいて了解を取るのが難しい面もある。圃場整備されたところはまだいいが、地域計画についても作れるのかどうか。町村で地域計画をひとつ作れるか?と考える。地域計画を作っても有害鳥獣対策をちゃんとやっていかないと担い手も定着していかない。林務の方では雑木を切るなどの対策があるが、農業の方でも、山林化していないところの整備の補助金があれば、有害鳥獣の対策になるのでは。昔は牛や馬を飼っていたので、広く草刈りをして見通しが良く有害鳥獣が近寄らなかった。今は林地化しているので林務の手を借り対策しているが、高齢化によりそれも難しくなっている。中山間直払いでやっているところもあるが、そこまで手が回らない人もいる。何かいい方策があれば、このめざす姿に近づくようなものができるのではと思う。

#### 【砂場所長】

・有害鳥獣は木曾では大きな課題だと認識している。調査によると被害は減少してきているが、数字通りか支援チームでも議論が必要だと思っている。ハード面、ソフト面、駆除とあるが、ハード面では国の鳥獣対策交付金で対応してもらっている。中山間直払いの地域協定で対策ができるかと思うが、新しいことに関してはまた確認させていただく。いずれにしても個人ではなく、地域ぐるみでやらないといけないし、鳥獣の種類にもよるので総合的にやっていく必要がある。困りごとがあれば支援チームで対応する。

**【田屋部会長】**

- ・重点取組 2 で御嶽はくさいの栽培面積が減っていくが、志水委員何かご意見あれば。

**【志水委員】**

- ・人・農地プランと地域計画について。地域計画数の 22 はホームページ等に載っているのか。

**【太田係長】**

- ・木曾地域で 22 地区がプランを設定しているということ。ホームページに公開はしていない。市町村ごとで公開されている。

**【志水委員】**

- ・資料があれば添付いただければありがたい。
- ・新規就農者が 21 年度は 13 人、27 年度は 10 人と 3 人減っている理由は。

**【太田係長】**

- ・現状（21 年度）の 13 人は実際に就農された人数で、計画時は同じ 10 名。

**【志水委員】**

- ・了解した。就農してもらえるようそれぞれの機関で協力していきたい。
- ・全体において 21 年の現状と、27 年の目標数値の整合性は取れているか。

**【砂場所長】**

- ・数値については議論のあるところだが、目標はあくまで目標なので、この 5 年間で努力していかなければならないところ。木曾の現状を分析して出した数値だが、目標ということで高めに設定している部分もある。他地域に比べると現状維持も難しい品目もあるので、皆様のご意見をお聞きできればと思う。重点取組 2 に花き、花木類と新規の作物も入れたので、この部分については目標以上にしていきたいと考えている。

**【志水委員】**

- ・野生鳥獣害被害の減少とあり、現状 1200 万で目標が 1080 万と減っているが、対策費用は上乗せした方がいいのでは。

**【砂場所長】**

- ・この金額は被害額なので減少させていきたいと示したもの。対策費用については交付金などで確保していく。

**【志水委員】**

・了解した

**【野口委員】**

・ここにいる女性委員は農村生活マイスターの認定を持っているが、新しい人にとってもらおうというのが木曾に限らず全県の課題になっている。去年は6人で今年は15人ほど。以前は何十人と受けていたが、今はとても少なくなってしまう。マイスターの人が周りに受けてくれる人がいないか探すが、なかなかいない。加工所や直売所の人たちが一斉に取り、今年30周年になる。引退する人も増えてきて新しい人にとってもらいたいと思うが、個々には探せない。以前はすんきや作付けの講習会に出てくれた人から候補者をみつけられたのだが、このままでは先細りになるばかりなので、活動の場がもっとあればいいと思うのだが。

**【砂場所長】**

・担い手、後継者についてはいろいろところで問題となっている。農村女性についても大きな問題だと思っている。新しい人が入ってこない加工所もマイスターも活動が出来なくなってしまう。昔は農村女性学校の講座があったりしたが、今はそういう機会が減ってきている。新規就農された方や興味がある方はいないわけではないので、何らかの形で出来るように検討していきたい。

**【黒内委員】**

・子牛の出荷頭数の現状と目標について。目標は増えているが、小さい農家は高齢化等で辞めて戸数は減り、若い人が頭数を増やしてという数値だと思う。戸数はこれからも減っていくと思うので、戸数も出さないとこの数値だけでは比較ができないかなと思う。

・転作奨励金は5年に一度水張りをしないと奨励金が出ない。木祖村の部会の中の話でも、奨励金が減らされれば、自分ができる範囲でしか牧草が作れない。米を作る人も減ってきていて休耕田が出てきている。そうすると鳥獣被害の問題も出ていろいろ危惧しているところである。

**【砂場所長】**

・木曾子牛の農家数も減ってきていて、出荷頭数も減ってきているのが現状。黒内委員には里親として農家を育てていただいた。若い方がクラスター事業を利用して拡大してもらおう。一戸当たり6頭の目標ではあるが、飼料の高騰もあって厳しい状況だが、関係機関で連携してやっていきたい。戸数についても継承支援をして何とか食い止めながら、やる気のある若い人に頭数を増やしてもらい、総合的に目標をクリアしていければと思う。コロナもあるし、出荷しても牛肉がなかなか高く売れないなど畜産の厳しさには危機感を持っている。今後も厳しい状況は続くので県の支援だけでなく、政策面でも国に働き掛けていきたいと思う。牧草の転作についても国の提言で、牧草については毎年種をまくわけではないから牧草転作助成金を減らすなど、経費削減の施策がされてきているが、農業の現状を知っ

てもらえるように声を上げていきたいと思う。

#### 【富井委員】

・重点取組1の多様な担い手が支えあう木曾の農業。農業従事者の高齢化の進行はひしひしと感じている。女性農業委員会総会の資料や農業新聞で農福連携ということで、障がい者が農業に従事するという取り組み。知的障害、四肢の障害、大変ハードルが高いかなとは思いますが、木曾にも養護学校があるので、卒業生が農業や加工所に就労できるサポートが出来たらいい取り組みになるかなと思う。農福連携とは違うが王滝村社協の取り組みで高齢者の居場所づくりということで、休耕田に半分花（ひまわり、コスモス）半分赤かぶを植えて農協に買ってもらう。営利事業ではないので、肥料やお茶代を賄うくらい。職員が段取りから何から準備しなければならないので、こういう取り組みは大変かと思うが、養護学校の卒業生と連携出来たらいいかなと思う。

#### 【砂場所長】

・農福連携は国も県も進めているところである。県内でも松本地域などで事例がある。木曾でも進めていかなければいけないところではあるが、私もこういう方たちを受け入れているところで視察研修をしたが、一般の方とは違うので、教える農家の方は苦勞されていた。だが、その方の得意なやり方があれば作業してもらえるのかなとは思う。中日新聞の小中学校花壇コンクールで、今年木曾養護学校が参加していてとても内容が良かった。その子の成長に合わせた役割（水やりなど）を与えるとしっかりやってもらえると先生に聞いた。個々の成長に合わせた指導ができれば、農業にも活用してもらえるのかなと感じた。

#### 【田屋部会長】

・農福連携についてはJA木曾でも昨年、いんげんの収穫をして、規格別に箱づめをやってもらい、ひと箱いくらとしてもらった。昨年2か月ほどやってもらったので、今年もお願いしたが、希望がなかった。組織として農福連携を進めてはいるので、ご理解いただければと思う。

#### 【二宮委員】

・私は2年前まで上松町の地域おこし協力隊だったが、そのころは、すんきや赤かぶのコンクール、郷土食を作る会などのイベントがあり、参加していた。それがきっかけで、木曾に残って、食のことに取り組んでいる。今の加工所で働いているのも木曾に配属となったから。だが、以降5年間、新規の人は入ってきていない。同世代に話を聞くと、農業に触れ合う機会がないし、やり方もわからない。イベントが地域の人たちと知り合うきっかけになる。40代くらいで、郷土料理の作り方を知りたいか思っている人もいると思うが、イベント等の開催を知るすべがない。町村や県のホームページで確認することはほぼなく、SNSになってしまう。紙ベースが木曾では主体になっていると思うが、私たちは新聞もとっていないので。すべてSNSになってしまうので、農業のこともSNSに上げてもらえれば若い人も見て

参加してもらえるかと思う。

・最近マイスターを取っているのは移住者の人。協力隊で農業をやる人は食にも関心があると思うので、マイスターを取ってもらえるのではないか。マイスターを取るには長野まで研修に行かなければならいので、時間も交通費もかかる。興味がない人にはメリットがないと思われる。自分の暮らしが優先で地域の農業のことまで考えられない。SNS の写真や映像だけでも木曾の農業を知ってもらうきっかけにはなるのではないか。

#### 【砂場所長】

・SNS についても議論していかなければならないところである。YouTube で農業技術をあげていたり、マーケティングをやっている人もいる。平成 30 年にセンターで新規就農者向けに動画を作成したこともある。Twitter 等も含め、発信力があるのは間違いないので積極的に取り入れていきたいと思う。今はコロナの関係でイベント等も以前のように開催できないが、SNS 等も含め発信力は高めていきたい。

#### 【田屋部会長】

・農業は食が主体だが、コロナ禍では「作って食べる」ができない。いろいろな制約がかかる。コロナの終息を願いつつ、農業の楽しさ、おいしさを発信していけたらと思う。  
・肥料も飼料も高騰していて農業者は苦慮している。肥料については国の高騰対策で値上がり分の 7 割を補填してくれると決まり、千葉県ではプラス 2 割の補填をしてくれると報道があった。長野県でもそのような話はあるか。

#### 【砂場所長】

・飼料高騰対策は県単と町村でも支援対策を実施した。園芸では国の交付金を活用した県単事業として、エネルギー効率が高まる施設を入れた場合の助成を現在やっている。大きな花農家や畜産農家が対象になる。国の肥料高騰対策も農家が軽減対策をやらなければならぬのが課題。国の方でも 2 割削減でなくてもいいような条件にはなってきている。今後も条件をさらに簡略化できるよう JA と一緒に考えているところである。

#### 【織田委員】

・生産したものを売る方法、PR の仕方とか、新規開拓の項目は考えられないか。

#### 【砂場所長】

・マーケティングということだと思うが、県全体の素案ではそういった部分もあり、稼げる農業の展開や、県オリジナル品種の PR などがある。木曾でも具体的な目標には載せていないが、すんき、木曾牛、そば、その他のものもマーケティングを支援していかなければと考えている。伝統食材の店舗数を載せてあるが、店舗数の増加だけでなく、食材の PR も発信していきたい。

**【塩澤委員】**

・畑を借りたいが、どこで借りたらいいかわからないという人がいた。前回の会議でも話が出たと思うが、スムーズに話が進む窓口があったらいい。もう少し、気軽に借りられたらいいが。とりあえず来年体験館で農業体験をしたらどうかという話をした。

・米作りに関して、親世代もやめてしまうので、子供にだけでなく、私たち世代にも入門講座等米作りにも力を入れてもらえればと思う。

**【砂場所長】**

・農地についてはまずは町村に相談してもらおう。県でも取次はできるので相談してほしい。

・木曽は自給の米農家が多いが、生産額は野菜、畜産の次に米。毎年JAと一緒に現地指導会をやっているので参加してもらえればと思う。木曽の場合カメムシやいもち病の被害があったりするがドローン等もあるので防除の支援をしていきたいと考えている。

・木曽の場合、成果は出なくても仕掛けていきたい、できることにはチャレンジしていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

**【田屋部会長】**

各委員さんから色んな意見ありがとうございました。出された意見を取りまとめでいただき木曽地域の発展方向の策定をお願いします。

その他の協議事項なしのため議事を終了する。